歴史文書は市民の財産　Nagano City Archives News Vol.21　2015 WINTER

長野市公文書館便り

●発行日：平成 27 年(2015 年)1 月 16 日●発行：長野市公文書館

©Nagano City Archives

戦後 70 年を迎えて

戦場の兵士からの便り

（軍事郵便）

昭和６年(1931) ９月 18 日、 中国東北部の関東州の防備と南満州鉄道の保護を任務とする関東軍は、奉天(瀋陽)東北方の柳条湖の満鉄線路を爆破しました。これを中国軍の仕業として関東軍は攻撃を開始し、満州事変が始まりました。そして、７年３月には満州国が樹立されます。20 年８月 15 日まで続く 15 年戦争の幕開けでした。

写真１の絵葉書の画題は「ノモンハン　破壊せる敵戦車」です。昭和 14 年５～９月にかけて、モンゴル人民共和国と満州国の間にあるノモンハン付近で、国境線をめぐり日本・満州国軍とソ連・モンゴル軍が衝突し、大規模な戦闘が起こりました。多くの戦車・重砲・飛行機を有する敵との戦いで、日本軍は戦死・行方不明 8,717 人と大きな損害を出しました。

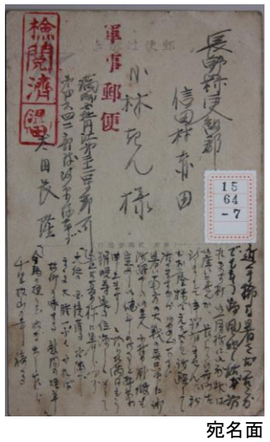
絵はこの戦闘の一場面を描いたもので、作者は藤田嗣治（つぐはる）です。すでにフランスで高い評価を獲得していた彼は、戦争中に戦争記録画を多数制作しています。昭和 18 年５月、横山大観を会長とする日本美術報国会が結成され、すべての美術団体はその傘下に入りました。統制が強化され、美術家も戦争に協力する体制ができあがっていきました。

あしかけ 15 年間の戦いで長野県から動員された兵士は、約 23 万 4,000 人、戦没者(戦死・戦病死・戦傷死)は５万 3,140 人に上っています(平成１年４月現在)。出征した兵士の戦地からの便りは、軍事郵便として軍事上の機密が漏れないように厳しい管理の下におかれました。絵葉書は２枚とも「検閲済」欄に検閲係の押印があり、検閲を経て出されたことが分ります。このような便りであっても、つねに生死の境にある戦地からの父・夫・兄弟などの便りは、故郷に残された肉親にとってかけがえのないものでした。

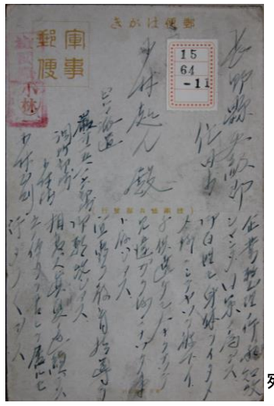
写真２

「まどろむ夢ははるばると遠い国境の空越へて、可愛い坊主の枕辺に思ひ一筋飛んで行く。

鬼をもひしぐ皇軍の誰もが父としての思ひは変りはないらしいです。幼子のひら仮名の文亦読めり。懐かしいものです」。この便りを満州国牡円江から出した兵士は無事に家族のもとへ帰還できたのでしょうか。



宛名面



宛名面

ビルマ(現ミャンマー)へ派遣された兵士が、故郷の信田村(現長野市信更町)の肉親宛に出したものです。「企業整理ノ件承知致シマシタ。国策ノ為デス」とあることから、昭和17年５月の企業整備令の後に出した便りだろうと思われます。

写真１

こんなときにはご相談ください。

・古い土蔵などを取り壊すので、古文書や古記録、古書を寄贈・寄託したい。

・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

〔視察・見学〕

平成 26 年(以下同) 10 月 30 日　当館職員と庶務課情報管理室職員が埼玉県立文書館を視察し、資料保存方法や電子文書の受入等、デジタル化への対応などについて意見交換しました。

11 月４日　八王子市史編さん審議会の関係者 14 人が当館を見学されました。

八王子市の方々の見学の様子

11 月 25 日　信州新町公民館より「出前講座」の依頼があり、専門主事が旧信州新町役場文書について話しました。

11 月 27 日　長野県情報公開・法務課の職員３人が当館を視察しました。県の文書管理の参考にしたいとのことでした。

〔調査・移管作業〕

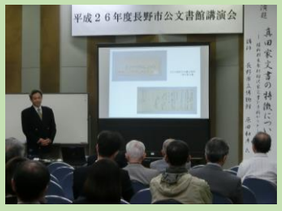
９月 30 日・11 月 12 日　大岡支所に保管されていた旧大岡村役場文書を２日間にわたり、２トントラックで計３回、段ボール箱で約 200 箱を当館に移管しました。

11 月 25 日・27 日・12 月３日　同じく戸隠支所でも３日間にわたり移管作業を行い、約 100 箱の旧役場文書を当館に搬入しました。

移管作業の様子(大岡支所)

資料選別の様子(戸隠支所)

講演会・パネル展開催

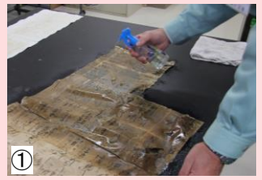


10 月 17 日、長野市博物館の原田和彦氏を講師に迎え、平成 26 年度長野市公文書館講演会を開催しました。「真田家文書の特徴について－埴科郡東条村相沢家文書を手掛かりとして－」と題し、相沢家という一名主が藩の行政文書も作るという真田藩の特徴的な文書作成システムを通して、藩政文書とは何かということをお話いただきました。講演会にあわせて、パネル展も開催し、「未来につなげる文書遺産」をテーマに、当館における公文書や古文書等の整理・保存について紹介しました。

資料保存作業（３）～襖の下張文書～

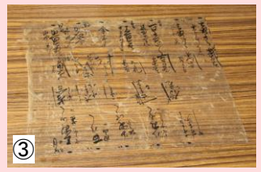
今回は、襖の下張文書をはがす作業です。下張文書とは襖や屏風などの下地に用いた反古紙の総称。今風に言えばリサイクルですが、地域の記録を伝える貴重な文書が含まれていることも珍しくありません。寄贈文書の中に襖の下張文書があり、整理・保存作業を開始しました。初めてのことで日々研究しながら作業を行っています。

まず、①文書の糊を溶かすために霧吹きで全体をぬらし、次に②薄いヘラで紙片が重なっているところを丁寧にはがしていきます。書かれている字を見ながら、上に重なっている文書か、下に重なっている文書かを判別します。ぬらしたことではがれやすくなりますが、簡単に破れてしまうので特に注意が必要な作業です。はがし終えた文書は、③平らな場所で空気を抜くように形を整え水気を与えながら広げます。最後に布を被せ、上から平らになるよう抑えながら水分を吸い取り乾かします。④が乾いた状態です(写真③･④は同じ文書)。完全に乾いたところで、欠損などを補修する本格的な修復作業に入ります。それについては次回ご紹介します。



①

②



③

④

「みどりの見学」アンケートから

９月に行われた「みどりの見学」（主催・広報広聴課）で当館を含む市の施設を見学された方々のアンケート結果が届きました。それによると、見学者全員が当館の見学に「満足した」との回答でした。公文書館があるということをご存知なかった方もいらっしゃいましたが、「どのような仕事かを知り、驚嘆した」、「頑張って欲しい」といった嬉しいご意見も頂きました。これからも市民の財産である多くの文書を保存・整理し、皆様に活用していただけるよう努めていきます。

長野市公文書館

所 在 地　長野市箱清水一丁目3－8　長野市城山分室内(〒380-0801)

電　　話　026－232－8050　　ＦＡＸ　026－232－8051

Home Page　http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/

開館時間　午前９時～午後５時（閲覧申込みは午後４時３０分まで）

休 館 日　土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日・年末年始(12月29日～1月3日)

『文藝倶楽部』新年大付録（明治四十二年一月一日・博文館発行）

新版とり壽語録

お正月にカルタやトランプ、すごろくなどで遊んだことを懐かしく思い出される方もいらっしゃるでしょう。この「新版とり壽語録（すごろく）」は明治時代に出版された『文藝倶楽部』新年号の付録です。『文藝倶楽部』は明治 28 年（1895）に博文館という出版社から創刊された文芸雑誌で、尾崎紅葉や田山花袋、樋口一葉といった当時の流行作家による連載小説や随筆などで人気を博しました（昭和8年（1933）休刊）。すごろくは明治 42 年の干支「酉」に因み、振り出しの「ヨリドリ」から上りの「むことり（婿取り）」まで、女性の人生の様々な場面になぞらえてコマを進めていくといった趣向になっています。「月給とり」「糸とり」「草とり」はまだしも、「借金とり」「旦那とり」などちょっと笑えない「とり」もあり、どちらかといえば大人向けのすごろくでしょう。一般的な道中すごろくとは異なり、さいころの目によって不規則にコマが進むのも「人生いろいろ」といったところでしょうか。 **長野市公文書館所蔵資料「信州新町史編さん資料」（資料番号・古 121・71）**